

## 赤川 翔平 氏の学位審査結果の要旨

主査：藤澤 順一

副査：岡崎 和一、岡田 英孝

帝王切開で出生した新生児は経膣分娩で出生した新生児と比較して、アレルギー疾患、炎症性腸疾患などの発症リスクが高く、これには腸内細菌叢の乱れが関連している可能性が示唆されていることから、申請者は分娩方法および栄養方法が新生児期の腸内細菌叢に与える影響を、糞便中の細菌 DNA を材料とした次世代シーケンサーによるメタ 16S リボソーム RNA 解析で検討した。

その結果、出産直後においては、経膣分娩児では帝王切開児と比較して有意に腸内細菌叢の多様性が高く、細菌の種類にも一定の差異が観察されたものの、これら二群の新生児をそれぞれ母乳栄養あるいは人工乳栄養で 1 ヶ月授乳後に同様の解析をおこなったところ、腸内細菌叢の多様性に有意な差異は認められなかったことから、生後 1 ヶ月においては、栄養方法に依らず腸内細菌叢の多様性が回復すると結論した。

これらの結果は、将来のアレルギー疾患等の発症リスクと腸内細菌叢多様性との関連を解析する上で有用な知見を提供することから、十分に学位に値すると判断される。